

5 - 2 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動

(1980 年 1 月 ~ 1981 年 6 月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January, 1980-June, 1981)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所
北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute; Abuyama
Seismological Observatory, Faculty of Science; Kyoto University

中国東部・近畿北部・北陸地域の地震活動については、これまで半年毎に報告してきた。本会報第 24 巻¹⁾に 1979 年後半期について報告して以来種々の都合で中断したが、今回は 1980 年前・後半期および 1981 年前半期について、まとめて報告する。ただし阿武山地震観測所の報告については、1980 年前半期にオンライン処理システムの改造が行われたため、その期間の結果は示されていない。

1) 鳥取微小地震観測所の結果 (第 1 図 ~ 第 3 図)

1980 年前半期 (第 1 図) : 1979 年後半期から引続いて山崎断層系の地震活動が活発であった。図中添字 A および B で示されている地震群は、それぞれ、1979 年 10 月 14 日福崎の地震 (M 4.3) および 1979 年 12 月 29 日三日月付近の地震 (M 4.9) の余震活動である。C は山崎断層北西端に発生した地震群 (最大 M 3.2) である。また鳥取の鹿野・吉岡断層に沿う活動もかなり活発であった。

1980 年後半期 (第 2 図) : 福崎でこれまでの活動域の少し南西に活動があったが、山崎や鹿野・吉岡断層の活動はかなり下火になった。

1981 年前半期 (第 3 図) : 山崎・鹿野・吉岡断層などではなお不活発であり、代って周囲の地域で活発であった。例えば、米子南方、小豆島、大阪湾中央部などの活動が目立つ。また岡山県北部の津山市付近に M 4.2 の地震が起った。

2) 阿武山地震観測所の結果 (第 4 図 ~ 第 5 図)

1980 年後半期 (第 4 図) : 図中添字 A で示されている M 4.6 の地震が顕著であった。これを除くと、全体的に例年よりやゝ不活発であった。

1981 年前半期 (第 5 図) : 1 月下旬から 2 月中旬において、阿武山付近に M3 ~ 4 (有感) の地震が群発し、一時的に活動度が非常に高くなったが、その後徐々に低くなり、4 ~ 6 月は

例年に比較してかなり低調であった。

3) 北陸微小地震観測所の結果 (第6図~第8図)

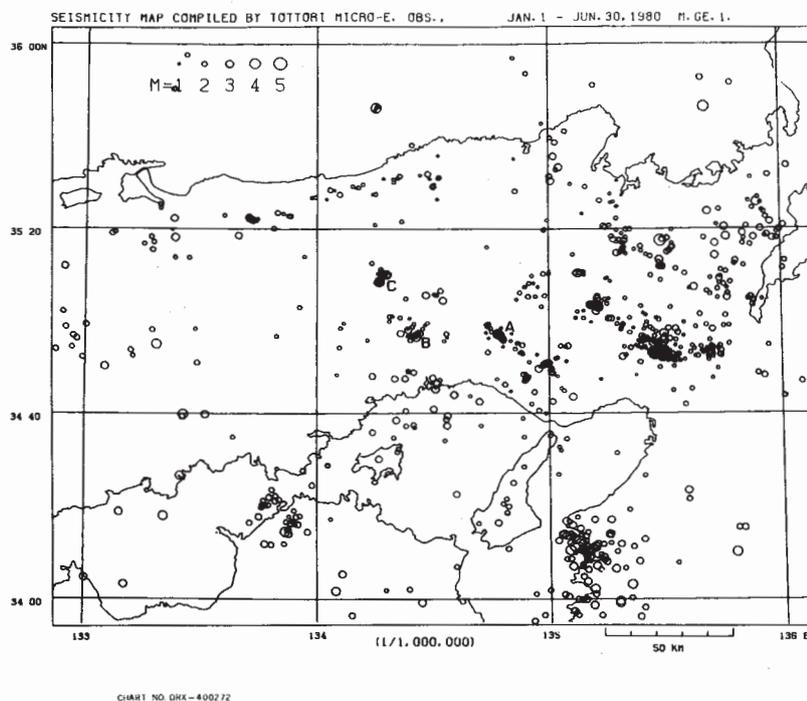
1980年前半期(第6図): 全体的には例年と大差ないが, 図中添字Aで示されている福井・石川県境の赤兎山の群発地震が顕著であった(本会報²⁾に報告済)。またその西北西20 kmの大日山にも多数の地震が発生した。

1980年後半期(第7図): 赤兎山の群発地震は低調となり, 代って赤兎山北方約20 km(添字B)に地震が多発している。また福井地震断層上に, M3クラスの地震が3回起ったのが目立つ。

1981年前半期(第8図): 赤兎山やその周辺の地震活動は終了し, この期間は福井地震断層に沿って, かなり小さい地震がきれいな線状配列を示しているように見える。

参 考 文 献

- 1) 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動(1979年7月~1979年12月), 連絡会報, 24(1980), 178-180
- 2) 京大防災研究所北陸微小地震観測所: 赤兎山(福井-石川県境)に発生した群発地震活動, 連絡会報, 25(1981), 240-242.



第1図 鳥取微小地震観測所による震央分布図(1980年1月~1980年6月)
Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January, 1980-June, 1980).

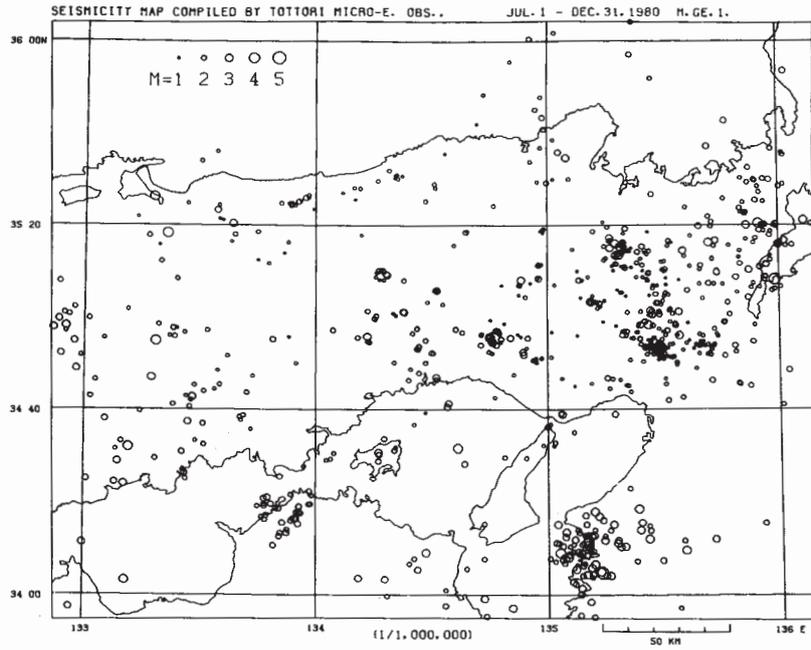


CHART NO DRX-401

第2図 鳥取微小地震観測所による震央分布図（1980年7月～1980年12月）
 Fig. 2 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (July, 1980-December, 1980).

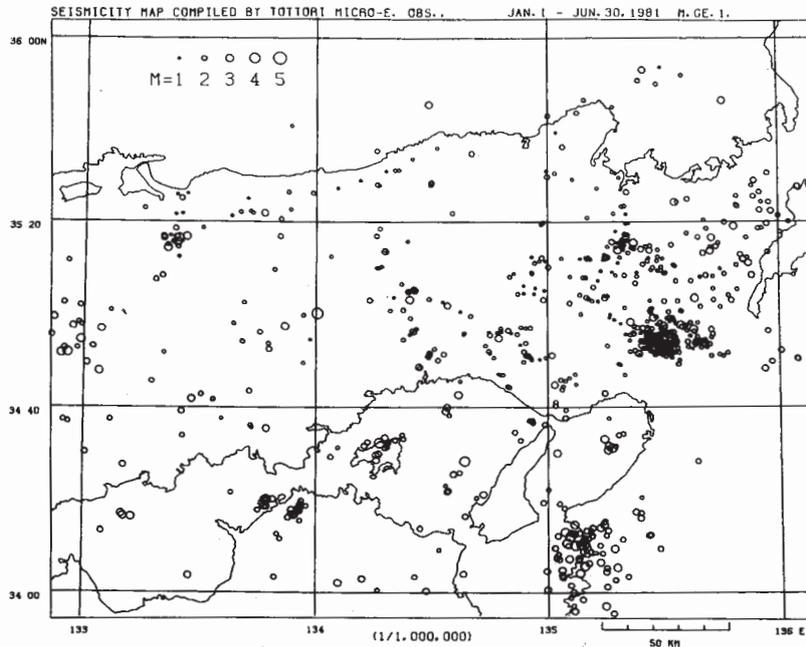
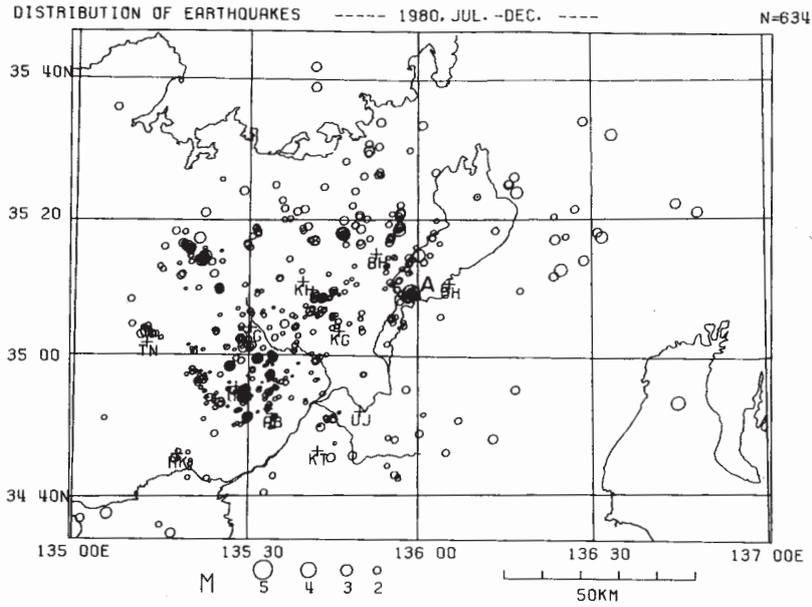
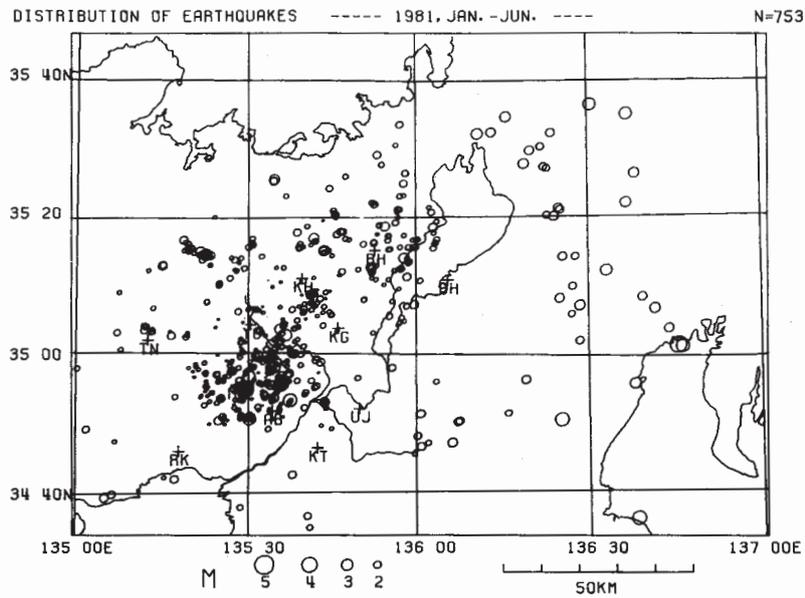


CHART NO DRX-40272

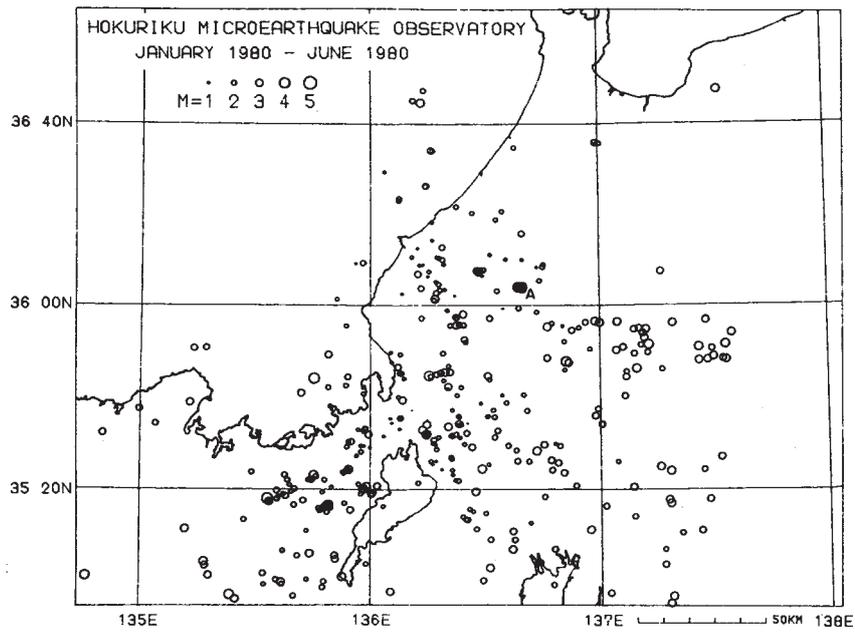
第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図（1981年1月～1981年6月）
 Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January, 1981-June, 1981).



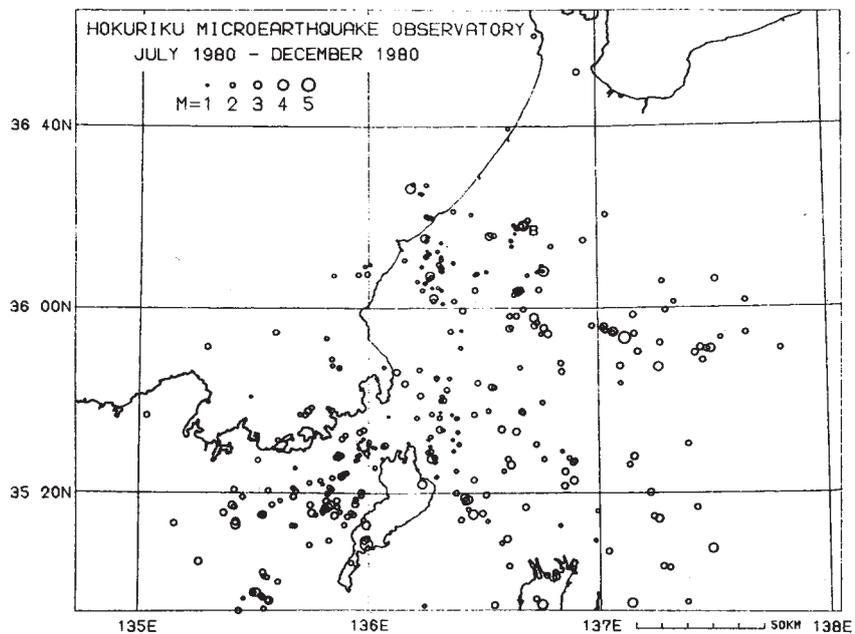
第4図 阿武山地震観測所による震央分布図（1980年7月～1980年12月）
 Fig. 4 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (July, 1980-December, 1980).



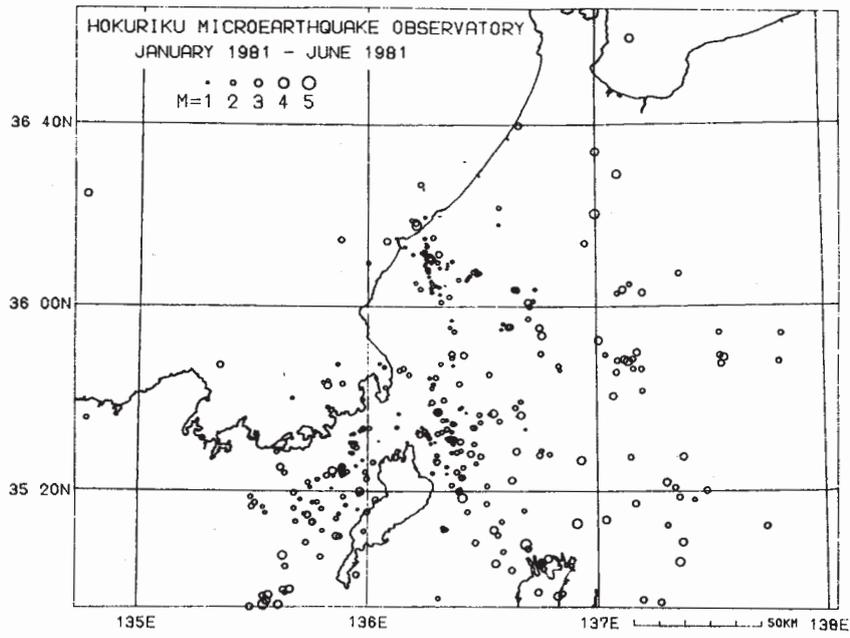
第5図 阿武山地震観測所による震央分布図（1981年1月～1981年6月）
 Fig. 5 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (January, 1981-June, 1981).



第 6 図 北陸微小地震観測所による震央分布図 (1980年1月~1980年6月)
Fig. 6 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January, 1980-June, 1980).



第 7 図 北陸微小地震観測所による震央分布図 (1980年7月~1980年12月)
Fig. 7 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (July, 1980-December, 1980).



第8図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1981年1月～1981年6月）
Fig. 8 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January, 1981-June, 1981).